

Public officials' liability: a case study on Poland

「公務員の賠償責任：ポーランドの事例研究」

Dawid Chaba

Abstract

公務員が公務を果たす上で、ある種の責任を受け入れる必要が生じる。この考えは公務員が国家及び国民にとって非常に重要な意味をもつ様々な業務を担当しているという事実に起因する。公務員は専門性、公正さ及び合法性を備えた行いで責務を果たすべきである。義務を果たさなかった公務員の責任を確保し、処罰することは必要不可欠である。

本論文では、ある特定の責任、すなわち深刻な法律違反に対する賠償責任に焦点を当てる。特に、賠償責任の主観的及び客観的範囲の特定に力点を置く。

Points for practitioners

本研究は、深刻な法律違反に対する公務員の賠償責任に関する課題の包括的な理解を行政の実務家に提供する。公務員は、自身が遂行する職務が、国家及び国民に対する職務の重要性に基づいて制定された法律の規制に沿って、慎重に遂行されるべきであることを認識すべきである。公務員が認識を欠く行為をした場合には、公務員の説明責任及び賠償責任を確保する必要がある。

本論文では、ポーランドの司法制度において規制がどのように実施されているのか、職員は賠償責任を問われるのか否か及びそれらに関係するさまざまな課題を論証する。